

令和6年度 学校評価報告

草加市立八幡北小学校
(令和7年2月18日作成)

1 学校教育目標 なかよく (徳) かしこく (知) たくましく (体) 共につくる一人ひとりの笑顔あふれる八幡北小	
2 重点目標・努力目標 なかよく(徳) ●みんなと仲良くできる児童【人間関係をつくる力】 ●互いの個性を大切にす児童【多様性の尊重】 ●自分たちのことを自分たちで決められる児童【自己決定】	3 前年度の成果と課題 成果 ○各種学習状況調査の結果分析を基に、授業改善を行ったことで今年度の各種学習状況調査では一定の成果を得た。 課題 ●児童について、お互いの意見を尊重し、折り合いをつけながら人間関係をつくる力を一層育てる必要がある。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○職員が主体的に学校運営に参画する意識が高まり、笑顔あふれる学校づくりに協力して取り組むことができた。 ●教職員の人材確保が不十分であること。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○一人ひとりの教職員が主体的に研修に取り組むとともに、ブロックごとに協力して研究することができた。 ●今年度の成果を引き継ぐこと及び授業力の一層の向上を図ること。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	B	○国・県・市の通達を、職員に周知・徹底することで、全校共通で健康管理と保健衛生管理に取り組むことができた。 ●危機管理マニュアルの見直しとそれに基づく共通理解・共通行動を徹底すること。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○校内規定を見直すとともに教職員事故防止研修を定期的実施し、情報を適切に管理・運用することができた。 ●全教職員が主体となった施設設備の維持・管理を行うこと。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○サタデースクールでの学校公開と、全ての学年で公開学習や参加型学習を実施することができた。 ●地域のボランティア人材を発掘すること。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○幼保等との交流行事を再開し、効果的に実施した。幼保小中連絡協議会や情報交換をとおして、幼保中との連携を深めることができた。 ●15年間を通じたカリキュラム編成の視点により年間指導計画を改善すること。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> 年間授業時数を見直し、職員・児童ともに負担を軽減した教育計画を実行できた。 身に付けるべき資質・能力を具体化した、教科等横断的なカリキュラムを作成すること。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き各種学習状況調査の結果分析を基に授業改善を行い、市学調では一定の成果を得た。 年間授業時数を精選した中で、学習内容を十分に習熟・定着させること。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育の推進事業でのご指導をもとに、考え議論する道徳に向けた授業改善を行えた。 道徳の時間を柱とした、教育活動全体を通じた道徳教育の充実を図ること。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> 外国語・外国語活動の授業において主体的に活動する児童の姿が多く見られた。 ICTの有効的な活用と、児童にとって深い学びになるための指導計画を作成すること。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修を通して、教職員の指導力が高まり、各学級での話し合い活動が充実した。 今年度の成果を来年度に引き継ぎ、具体的な児童の変容へとつなげること。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全学年で指導計画を見直し、指導内容を充実させることができた。 地域との交流を深めるために教科等横断的なカリキュラムを作成すること。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> 報連相を確実にを行い、チームとして生徒指導に当たることができた。必要な事案は校内で共有して全校で指導することができた。 より強固で組織的な生徒指導体制を構築すること。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートを活用し、学期ごとに目当ての設定・振り返りを行い、児童が主体的に成長をふり返ることができた。 中学校と連携したキャリア教育を実施すること。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> 教育支援室と連携し、児童理解研修等を定期的実施することで、児童一人ひとりに、より効果的な指導を行えた。 個別の支援計画を一層充実させること。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校司書を中心に学校図書館のイベントを開催したことで、年間の貸出冊数が増加した。 蔵書の計画的・定期的な点検・整備をすること。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業等でタブレットの積極的・有効的活用に努め、学習意欲と児童の情報活用能力が高まった。 学年の実態に合わせた情報モラル教育を実施すること。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中に教職員の人権感覚育成をねらいとした研修を実施し、指導の充実につながった。 人権教育・道徳教育を柱とした人権感覚を育成すること。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①自己肯定感・自己有用感・他者理解力を育む特別活動の推進	・自己肯定感・自己有用感・他者理解	A	○特別活動の校内研究を通して、児童の豊かな心を育み、自己肯定感・自己有用感・他者理解力を高めることができた。 ●今年度の成果を来年度に引き継ぎ、自己肯定感・自己有用感・他者理解力をさらに高めること。
	②学力の向上	・授業改善	B	○夏季休業中に、各種学習状況調査の結果を用いた研修会を実施し、学力向上に資する授業改善を行ったことで、市学調では一定の成果を得ることができた。 ●一層の授業力向上と、年間授業時数を精選した中で、学習内容を十分に習熟・定着させること。
	③地域と共にある学校づくり	・学校運営協議会の充実	B	○学校運営協議会委員の意見を学校経営の重点目標に反映し、一定の成果を得ることができた。 ●学校運営協議会を通して、一層地域との連携を図ること。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

本校は、「なかよく かしこく たくましく」の学校教育目標のもと、「共につくる一人ひとりの笑顔あふれる八幡北小学校」づくりに励んだ。

- ・令和6年度は、市の研究委嘱を受け、特別活動の充実を通じた豊かな心の育成を目指し、「子ども達の互いのよさを発揮し、可能性を広げる特別活動」を研究主題とした校内研究に励んだ。
- ・学校運営協議会委員の意見を学校運営に反映させ、地域と共にある学校づくりを推進することができた。
- ・引き続き、多様性を認め合える児童、善いこと悪いことを判断できる児童など、児童の豊かな心の育成に取り組んでほしい。【学校関係者評価】
- ・体力向上の傾向がみられるので、来年度も引き続き取り組んでほしい。【学校関係者評価】

6 次年度の改善策

教職員・児童・保護者・地域の思いを生かした行事・指導計画を立案し、一層見通しをもって学校教育活動を実施する。

- ・特別活動の研究成果を確実に引き継いで自己肯定感・自己有用感・他者理解力を育み、児童の具体的な変容へとつなげる。
- ・校内研修の充実や教科担任制の実施などをとおして、教職員の負担軽減と授業力の向上を図る。
- ・デジタルドリルなどICTを活用し、限られた授業時数の中で効率的に個別最適な教育活動を進める。
- ・組織的な生徒指導体制を維持し、深い児童理解に伴う積極的生徒指導を学校全体で実施する。
- ・教職員事故0を継続するため、短時間の教職員研修を繰り返し行い、教育公務員としての自覚を促す。